

### 見守る保育

子どもが大人との関わりを求めるサインを出した時には、必ずこたえてあげられるためにも、子どものころからだの距離を少し取り「見守る」必要があります。子どもが求める事をすべて「やってあげる」のではなく、発達に応じた“適切な援助”をする。これが見守る保育です。

子どもの「今」に目を向け  
挑戦しようとする意欲を導き出します

少し難しくても頑張る  
その挑戦が自立へと繋がります



“子どもを信じて見る”  
保育者の目と心も大切です

子どもと子どもの世界を広げ  
子ども達同士で気づきあえる保育を目指します

### しなやかに

自分で考え行動すること、友達を受け入れることなど、全てが繋がりしなやかな子どもの姿になります。自分自身の内面への思考が進み、自意識が高まるとともに、自分とは異なる身近な人の存在や、それぞれの人の特性や持ち味などに気付いていきます。様々な体験や対人関係の広がりから自立心が高まり、どんな困難にも立ち向かっていける、しなやかな心を育む事ができるのです。

様々な体験をすることで  
「考える力」の土台が身に付きます

例えばつかっても、話し合う事でお互いの  
思いを知り受け入れ、解決へと導いていきます



選択することを繰り返すことで  
自分で考え行動出来るようになります

自分で考え行動すること、友達を受け入れること  
など全てが繋がりしなやかなさが養われています

### ゆったりと

一人ひとりの生活リズムに合わせてゆったりと、子ども自身が生活の輪を広げていけるような環境や活動を提供し、発達を保障することを大切にしています。様々な生活リズムに対応できる、環境のバリエーションがあります。

一人ひとりの生活リズムに合わせて  
安心して過ごせる環境を作っています

いつ、どこで、誰とあそぶのか  
自分で考えて自分で選択しています



いっぱい食べてしっかり排泄  
ぐっすり眠っていっぱいあそぶ

年齢にあった時間・空間が  
保障された空間です

### 異年齢保育

「学び合い」には、教える側、教えられる側、ともに学びを深め合うことができます。生年月日などにこだわらず、それぞれの発達や課題を解決するためには、どのような集団をつくったらいいのか。クラスや年齢に囚われない、一人ひとりの子どもが自分に合った活動に取り組める環境を用意しています。

「優しさ」「温かさ」  
の心が広がっていきます

日々関わりを持つ中で、責任感や  
信頼関係が芽生えていきます



思いやりの心は  
友達から友達へと伝わっていきます

全ての子どもにとって頼りになる存在は  
保育者ではなく異年齢の友達です

### ゾーン保育

保育園でいうゾーンとは、子ども自身の興味によって作り上げられ、変化し、増えていく空間です。  
ゾーンの種類や数を限定することなく、その質が豊かになっていくように、  
子ども達の興味とその変化に応じた環境を用意しています。

発達に応じた空間を過ごせるよう  
「心」も「身体」も柔軟に・・・



様々な想いを『したい』と思った時に  
取り組めるようにしています

自ら遊びを選択し  
満足するまで集中して遊びます

“遊びの中の学び”  
を明確にできる場所

### 小さな社会

私達が目指す子どもの像は、“自分は社会の一員である”ということが自覚できる子どもです。  
すなわち、世の中にはさまざまな人がいて、さまざまな職業があり、さまざまな生き方や価値観があるということ  
を知っている子どもです。その一つひとつ、一人ひとりに意味がある存在で、自分もまた  
そのなかの一人であることを自覚してほしいと願っています。決してひとつの価値観にしばられることなく、  
子どもそれぞれの個性が輝く小さな社会で共生しています。

「したい」気持ちの芽生え  
それは「お手伝い」のはじまりです

自分の為でもあり  
また、誰かの為でもあります



友達が自分と違う“思い”を  
持っていることに気づき始めます

友だちとどの様に協力するのか  
考え行動しています

### 科学する心

科学を多く体験することで、子ども達の「何で？」の心をくすぐります。「なぜ」「ふしぎ」と感じ、  
抱いた疑問を自ら探求する姿勢・態度（＝「科学するところ」）と言います。  
子ども達が抱いた興味を受け止め、また、各クラスで子ども自ら目で確かめ、  
心で感じる事が出来るような工夫を凝らしています。

「わくわくする心」を育て、少しずつ「数」に  
も興味を持てるような環境作りをしています

自然に対する驚きや感動・不思議さを感じる中で  
探究心や思考力が養われます



自ら考え、試すことで  
学びに繋がります

科学に疑問を感じ、未知の物、不明確な物に向けられ  
その探求の過程や結果が満足や喜びを生じさせる環境

### 年間行事

日々の保育の延長線上に行事があります。今を大切に、期待感を高めるためにも子ども達のわくわくを引き出す  
工夫をしています。そうすることで、行事のための練習などがなくなり、  
子ども達も行事に対してスムーズに入る事ができます。  
みんなで何かをやり遂げたという達成感から自信につながります。

達成感に満ち溢れる  
子どもたちの笑顔を導き出します

すべては遊びの中から  
楽しむ事が一番大事



走って跳ぶ楽しさ、言葉で伝える気持ち  
歌って踊る表現生活が全ての行事へ繋がっています

友だちと協力し、一つの事を達成することで  
みんなで一つの事を行う大切さを学んでいきます